

「ともにがんばろう！東北」

関経連速報震災特別号

TEL 06-6441-0105

発行所／公益社団法人 関西経済連合会

編集発行人／三村 典子

FAX 06-6443-5347

2012年6月29日(金) 第6号

編集／苅田 弥生

URL <http://www.kankeiren.or.jp/>

〈不定期発行〉

東日本大震災に関する関経連のさまざまな取り組みをまとめ、関経連速報<「ともにがんばろう！東北」震災特別号>として、乙種を含む、会員の皆様にお送りしております。

震災復興対策特別委員会 宮城県を訪問



6月22日(金)～23日(土)、関経連震災復興対策特別委員会の蔭山委員長、小椋副委員長、稲田アドバイザーはじめ9名が宮城県を訪問した。

宮城県庁では若生副知事と意見交換を行い、副知事からは県産品に対する風評被害や人口流出、財源の確保など多岐に渡る課題があげられた。これに対し委員長から、関西企業の「被災地のために何かお手伝いをしたい」という気持ちを形にするためにも、関経連として復興支援を継続していくことを表明した。続いて、東北経済連合会では、風評被害と風化という2つの風が吹いているという現状、失った市場を取り戻す難しさ、農業の6次産業化に向けた新たな動き等について説明があった。

また、レンゴウの新仙台工場(大和町)と積水ハウスの東北工場(色麻町)、さらに甚大な津波の被害を受けた南三陸町、女川町、石巻市の視察を実施した。今回の意見交換・視察の結果をもとに、当会では引き続き現場のニーズに即した政策提言や支援アクションに取り組む。

(経済調査部 TEL 06-6441-0102)

まだまだ必要なボランティア作業 —「関経連号」(第3便)を派遣—

6月15(金)～18日(月)、当会主催のボランティアバス「関経連号」を宮城県七ヶ浜町に派遣した。昨年に引き続き3便目となった今回のバスには、会員企業社員28名、西日本経済協議会(北陸・中部以西の6経済連合会)事務局職員9名、関経連事務局職員10名の計47名が参加、津波被害を受けた農地に溜まったがれきの除去作業にあたった。

また、石巻市内にて甚大な津波の被害を受けた地域を視察したほか、市民による「語り部」との懇談を実施し、実際の被災経験に基づく教訓を聴講した。

昨年度の2便と今回の派遣で、「関経連号」参加者の延べ人数は113名となった。被災地では震災から1年3カ月以上経過した現在もボランティアニーズが残っている。今後も当会では会員企業の皆さまに、被災地の現状をまず実感していただくため、ボランティアバスの派遣を継続する。
(経済調査部 TEL 06-6441-0102)

<コラム>～新たな芽～

ボランティア活動を行った七ヶ浜の農地。われわれが作業した後も、細かながれきの撤去を続け、さらに除塩をすることによって、やっと農業を再開できるということを知り、復旧・復興への長い道のりを痛感した。

しかし、一連の作業を終えた農地からは、確かに新たな芽が出ており、われわれの小さな力が積み重なることで、確実に復旧・復興に向かっていくと、少し励みになった。一日も早く農地が新たな芽でいっぱいになることを祈りつつ、関西に戻った。

(地域連携部 中西)

震災関連情報サイト「ともにがんばろう！東北」
(<http://www.kankeiren.or.jp/saigai/index.html#tohoku>)